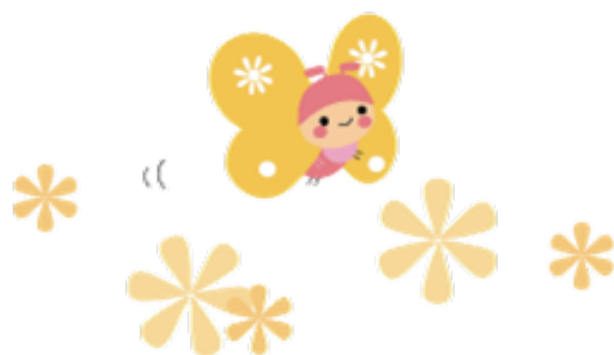


2015年度 活動報告書



東京女子医科大学 男女共同参画推進局



女性医師再教育センター

目 次

1. センター長挨拶	1
女性医師再教育センター センター長 檜垣 祐子	
2. 女性医師再教育センター 概要 & 活動報告	
(1) 設立趣旨	2
(2) 組織図	2
(3) 運営委員一覧	3
(4) 事業報告	4
(5) プロジェクト関連図	5
(6) 女性医師 再教育 - 復職プロジェクト	
プロジェクトについて	6
研修協力病院	7
申請から研修までの流れ	8
申請者の状況 (2016年3月末現在)	9
研修者の感想	10
(7) 教育・学習支援プログラム (e-ラーニング)	
プログラムについて	11
プログラムの特長	12
申請者／登録者数推移、登録状況 (2016年3月末現在)	13
2015年度の制作講義	15
(8) 「論文を書いてみようプロジェクト」、 「一般内科プロジェクト」のe-ラーニング公開	16
(9) Facebookの活用	17
(10) 公式アプリのご紹介	18
(11) 一般内科プロジェクト	
発足の経緯、多施設による初診外来主訴調査	19
一般内科研修の受付開始	20
(12) 「第5回 復職のためのハンズオン実習」の開催報告	21
3. 学術活動、メディア掲載記事等	24

1. センター長挨拶



東京女子医科大学 男女共同参画推進局
女性医師再教育センター
センター長 檜垣 祐子

女性医師再教育センターは2006年に開設され、離職者のための復職支援とeラーニングによる知識のアップデートを女性医師支援の柱として活動して参りました。2014年度からは、執行部のメンバーも入れ替わり、本学の東医療センターおよび八千代医療センターから、新たに数名の運営委員がセンターの支援活動に加わることとなりました。

復職支援に関しては、センターに登録いただいた女性医師数が、2016年1月に217名となり、そのうち90名以上が実際に研修を行い、復職へ向けてステップアップされました。

eラーニングは年々内容が充実しています。ガイドラインの変更などに伴い、コンテンツのアップデートも進めています。現在は110を超えるコンテンツを配信しており、視聴登録者数は5000名を超えています。

復職支援とeラーニングという柱となる活動に加え、複数の医療機関のプロジェクト担当医師らとプロジェクトチームを組織し、協力して進めてきた「一般内科プロジェクト」があります。これは小規模ないし中規模の医療機関の外来診療において、窓口性の高い一般内科の診療が女性医師の復職の場のひとつとして重要であることから、そのための研鑽に役立つカリキュラムの作成を目標としているプロジェクトです。一般内科の初診受診者の主訴に関する集計結果から、一般内科の診療医として復職を目指す女性医師、また、その指導に当たる現場の医師にとって、役に立つカリキュラムの作成に向けて、プロジェクトチームの力を結集して推進してまいります。2016年1月にはハンズオン実習を開催し、参加者はフィジカルアセスメント、腹部超音波、消化管内視鏡などの手技を実際に体験しました。また、他の参加者との交流の場ともなりました。

このような多面的な支援を展開することで、より多くの女性医師がその力をいかんなく発揮し、使命を果たすことができるよう、これからもセンターのスタッフ一丸となって取り組んで参ります。



2. 女性医師再教育センター 概要&活動報告



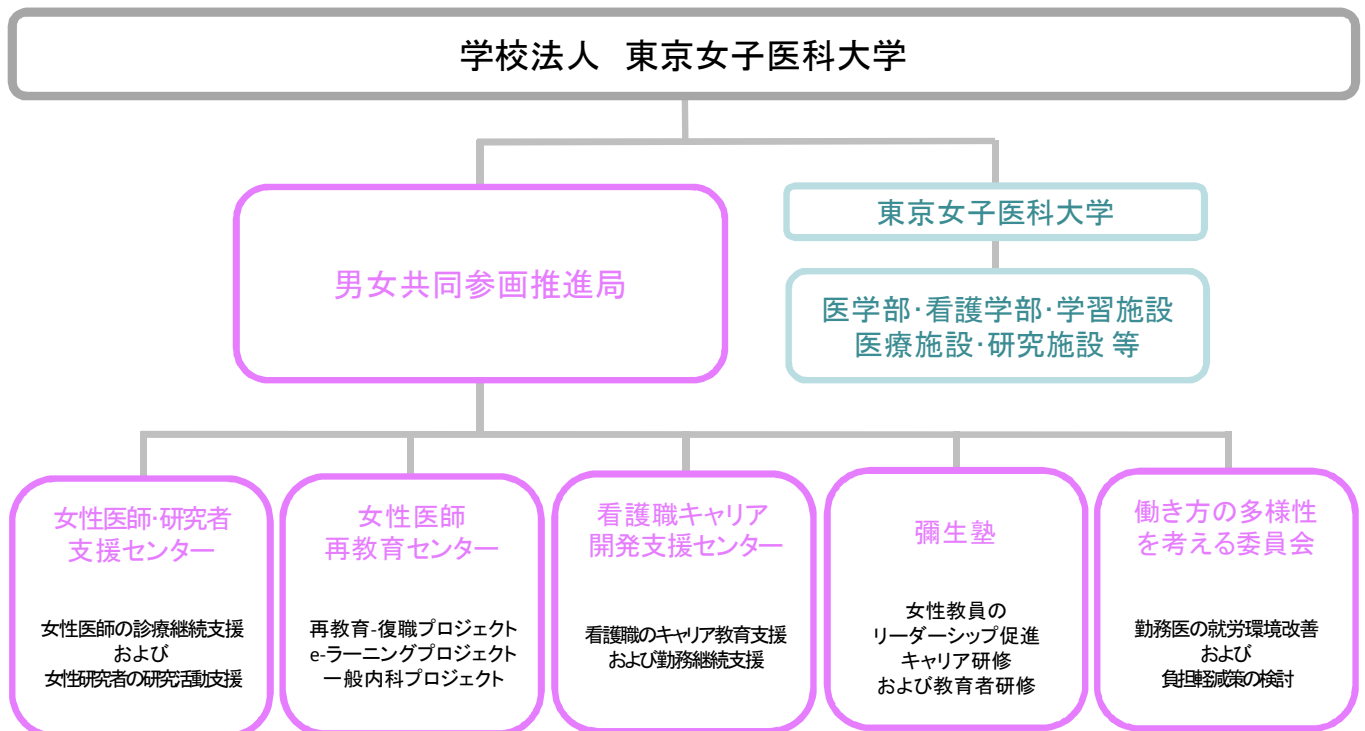
(1) 設立趣旨

現在、医師全体の中で女性医師の占める割合は30%を超え、医学・医療の分野においても女性医師が担う場面が増しつつあり、その活躍が一層期待されています。

しかしながら、女性のライフコースは子育てや配偶者の転勤など、自分自身よりも家族や周囲の大切な人たちの生活に影響されがちです。価値観の多様化した現代社会では、医師といえども、さまざまな事情により、仕事を継続することが困難となり、離職を余儀なくされる場合も決して少なくありません。いったん離職した女性医師が、再度臨床の場に戻ろうと考えても、その復職は決して容易ではありません。医師としてのキャリア、離職の期間、周りの環境などは一人ひとり異なります。また、いきなり多忙な臨床の現場に戻ることに、誰しも困難を感じることでしょう。

女性医師再教育センターは、復職を希望する女性医師のために設立されました。当センターは復職に先立って、研修受け入れ先病院の協力のもと、臨床の現場で自分自身のニーズにあったオーダーメイドの研修が行える『女性医師 再教育-復職プロジェクト』と、自己学習のための『教育・学習支援プログラム(e-ラーニング)』の2つの柱を軸として活動を行っています。さらに、2015年度からは一般内科プロジェクトで研修の受付も開始となり、これらの活動を通して、一人でも多くの女性医師が、復職のための第一歩を踏み出せるようにサポートしています。

(2) 組織図(2016年4月現在)



(3)運営委員一覧(2016年3月末現在)

(敬称略、順不同)

所 属	職 名	氏 名	女性医師 再教育センター 職位
女性生涯健康センター	副所長・教授	檜垣 祐子	センター長
糖尿病センター	准教授	岩崎 直子	副センター長
東医療センター内科	准教授	小川 哲也	副センター長
学生健康管理センター	講師	横田 仁子	
女性生涯健康センター	所長・教授	加茂 登志子	
消化器内視鏡科	教授	中村 真一	
学生健康管理センター	教授	内田 啓子	
眼科	臨床教授	高村 悦子	
医療・病院管理学	准教授	加藤 多津子	
小児科	准教授	平澤 恭子	
衛生学公衆衛生学(二)	准教授	小島原 典子	
東医療センター耳鼻咽喉科	准教授	余田 敬子	
東医療センター性差医療部	准教授	片井 みゆき	
成人医学センター	講師	松村 美由起	
八千代医療センター乳腺・内分泌外科	助教	地曳 典恵	

(4)事業報告

2015年

- 4月 10日(金) e-ラーニング公開:女性と骨粗鬆症
20日(月) 定例会
- 5月 12日(火) e-ラーニング検討会議
15日(金) e-ラーニング公開:優秀な医師になる方法教えます
～結婚、子育てドンと来い～
18日(月) 定例会
19日(火) 本院小児科で1名研修開始
- 6月 15日(月) 定例会
16日(火) e-ラーニング公開:認知症の早期診断と鑑別診断
- 7月 21日(火) e-ラーニング公開:抗血栓療法入門
27日(月) 定例会
- 8月 5日(水) 兵庫医科大学病院総合内科で1名研修開始
24日(月) e-ラーニング公開:画像診断6 FDG-PET(臨床編:生理的集積)～
- 9月 14日(月) 定例会
- 10月 5日(月) 東医療センター産婦人科で1名研修開始
14日(水) e-ラーニング公開:トラベルメディスン ～渡航医療～
19日(月) 定例会
30日(金) 一般内科プロジェクト会議
- 11月 16日(月) 定例会
18日(水) e-ラーニング公開:女性のうつ病・うつ状態と注意したい心理社会的要因
～女性のトラウマ編～
- 12月 8日(火) 東京都立北療育センター 来訪
16日(水) e-ラーニング公開:一般内科で遭遇する眼疾患
21日(月) 定例会

2016年

- 1月 18日(月) 株式会社マーキュリー 取材
定例会
22日(金) e-ラーニング公開:日本赤十字社血液事業における医師の役割
～キャリアの継続と日々の継続～
23日(土) 第5回 復職のためのハンズオン実習 開催
- 2月 20日(土) 広島県医師会女性医師部会総会にて講演(檜垣センター長)
26日(金) 定例会
- 3月 7日(月) 運営委員会 開催

(5)プロジェクト相関図

女性医師再教育センターでは、実地研修の「女性医師 再教育-復職プロジェクト」と「教育・学習支援プログラム(e-ラーニング)」を2つの柱として活動しています。

また、公式Facebookページでは様々な情報発信や動画掲載などを行い、非公開のグループとしてバーチャル同窓会を立ち上げ、センター関係者同士のコミュニケーションの場も提供しています。

2014年度からは、新たに「一般内科プロジェクト」と「論文を書いてみようプロジェクト」を開始し、e-ラーニングの公開などを行っています。



(6)女性医師 再教育 - 復職プロジェクト

■プロジェクトについて

全国の女性医師のために、東京女子医科大学、日本赤十字社、社会福祉法人恩賜財団済生会、メディカル・プリンシプル社が共同で、スムーズで無理のない再研修をお手伝いする、それが「女性医師 再教育-復職プロジェクト」です。

2007年4月に「女性医師の労働条件や就業環境改善のための支援」との目標において理念を同じくする日本赤十字社、株式会社メディカル・プリンシプル社と共に「女性医師 再教育-復職プロジェクト」を組成いたしました。

さらに同年9月、社会福祉法人恩賜財団済生会がプロジェクトに参画することとなり、全国対応の問題は解決に至りました。日本赤十字社と共に、日本全国に地域中核的な医療機関を有する病院グループに加盟頂き、それらが研修受入先となることで、東京まで物理的に通えない研修希望者への選択肢が大きく広がることとなりました。

せっかく医師の資格を取得されても、女性医師の場合は出産・育児、配偶者の転勤、介護等の事情により、やむを得ず臨床の現場を離れざるを得ないことが少なくありません。しかし、一度離職してしまうと日進月歩で進む臨床の現場に戻り難くなる現実があり、一気に復帰を果たすのはハードルが高すぎて困っておられるケースは多いようです。また、経歴や現在の環境、到達目標も様々ですので、一人ひとりに合わせた復職ステップの設定が求められます。このようなニーズに答えるべく、当センターでは申請された先生方に個別の面談を行い、研修日数や時間、研修内容などについてオーダーメイドの研修プランを作成しています。これは、無理なく研修が始められるようにし、一人でも多くの方が研修を行い、研修成果を広く社会へ還元することを目的として活動しているためです。実際の研修では、研修を希望した女性医師が研修後にその病院で就職するという条件にせず、研修後の勤務先や勤務形態を自由に選択できるようにしています。

なお、申請される先生の出身大学、所属、地域は一切問いません。



平成26年9月に行われた大学基準協会による実地調査の大学評価(認証評価)結果の中で、長所として特記すべき事項として、女性医師再教育センターの出身大学や所属、地域を問わない幅広い支援の取り組みが、建学の精神に則り、社会貢献(CSR)として女性医師が復職するための大きな後押しになっていると高く評価されました。

また、センターの活動は、以下の点において「女性医師等の復職支援」の好事例であるとして、厚生労働省のホームページに掲載されています。

- ① 県域や卒業大学にこだわらない復職支援活動
- ② 人生相談・個人面接・フォローアップ
- ③ 病院または大学における相談機能
- ④ 復帰先診療科の多様性
- ⑤ 研修先病院での就業条件がないこと

厚生労働省 掲載ページ

<http://www.mhlw.go.jp/iken/after-service-vol2t1.html>

■研修協力病院

東京女子医科大学病院及び附属病院はもちろん、日本赤十字社や恩賜財団済生会関連の病院など、申請者の方が通勤するのに負担のない範囲で、研修受け入れ先病院を検討します。

また、女性医師の再教育にご協力いただける地域病院にもご登録いただいております。

2016年3月末現在でご登録いただいている病院は以下の通りです。

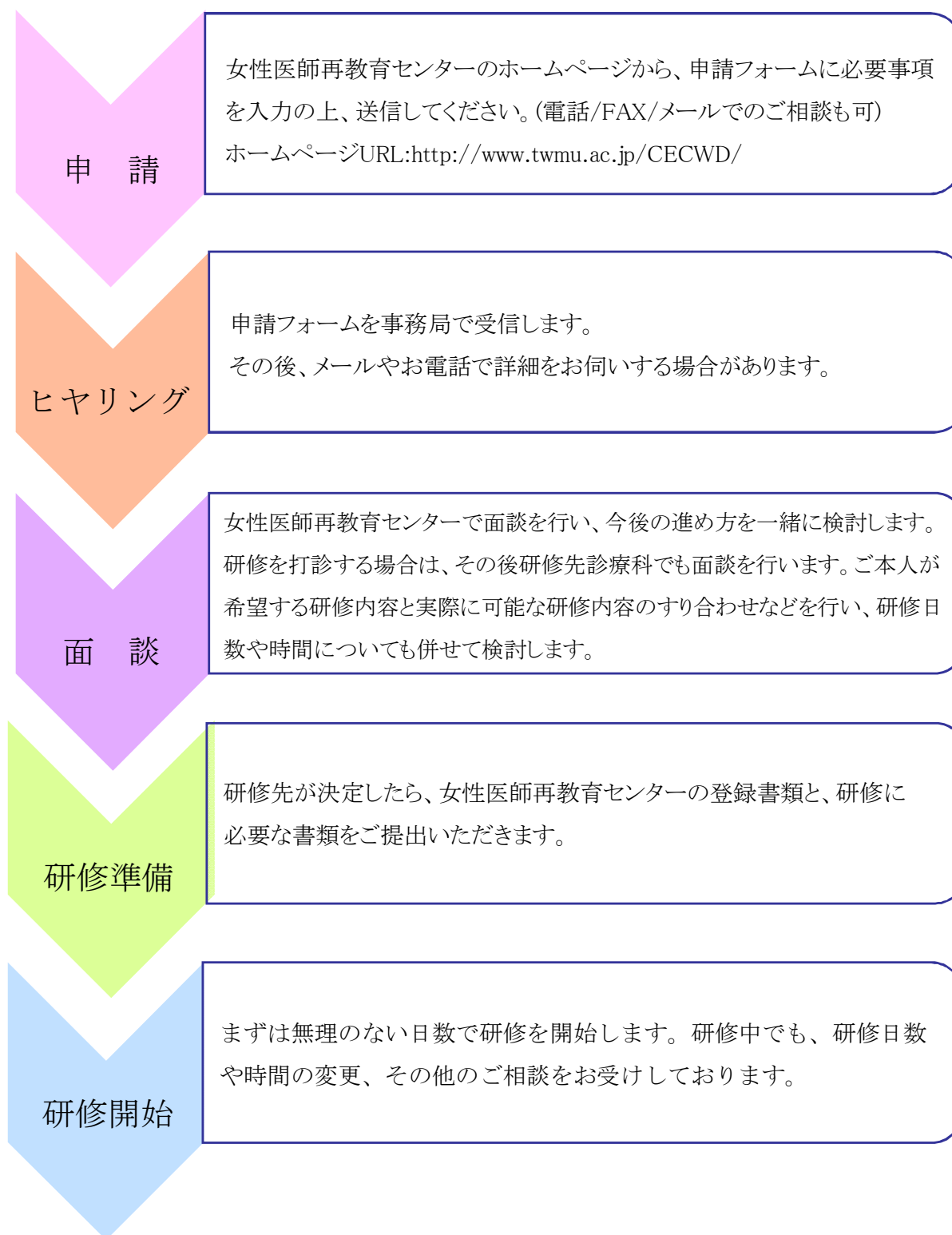
<2016年3月末現在(ご登録順)>

- 社会医療法人愛仁会 植村病院(鹿児島県)
- 医療法人社団 笠置記念胸部外科 松山笠置記念心臓血管病院(愛媛県)
- 医療法人誠昇会 北本共済医院(埼玉県)
- 社会医療法人 石川記念会 HITO病院(愛媛県)
- 医療法人社団常仁会 牛久愛和総合病院(茨城県)
- 奈良県立医科大学附属病院(奈良県) ※現在、中央内視鏡・超音波部のみ対応
- 東京勤労者医療会 東葛病院(千葉県)
- 藤田保健衛生大学病院(愛知県) ※現在、脳神経外科のみ対応
- 社会医療法人財団慈泉会 相澤病院(長野県)
- 労働者健康福祉機構 ※現在、関東労災病院、中部労災病院など13病院のみ対応
- 東京ほくと医療生活協同組合 王子生協病院(東京都)
- 兵庫医科大学病院(兵庫県)
- 医療法人協和会 協立病院(兵庫県)
- 串間市民病院(宮崎県)
- 東京都立北療育医療センター(東京都)

その他、全国の日本赤十字社、恩賜財団済生会関連の病院も含めて、研修先を検討致します。

上記施設への研修打診・依頼は、すべて再教育センターから行います。

■ 申請から研修までの流れ



※研修期間は原則3ヶ月です。

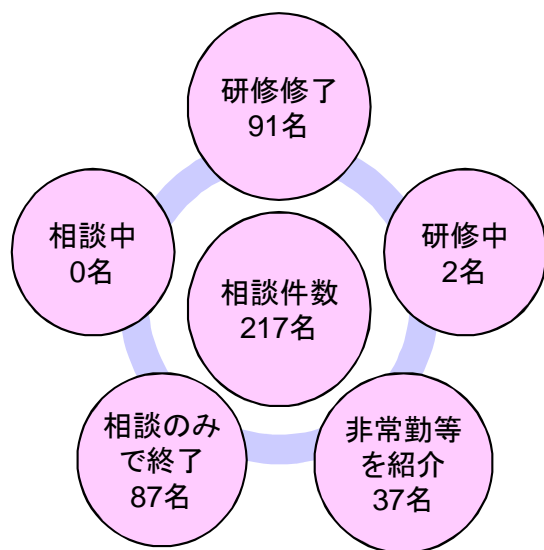
※希望される診療科で2年以上の診療実績がある方を対象としております。

■申請者の状況(2016年3月末現在)

2016年3月末現在、申請者数は217名となっております。そのうち、研修を終えられた方が91名、研修中の方が2名、相談のみで終了した方が87名、非常勤勤務等をご紹介した方が37名いらっしゃいます。相談をしたことによりご不安が解消され、研修を行わずにそのまま復職された方もいらっしゃいます。

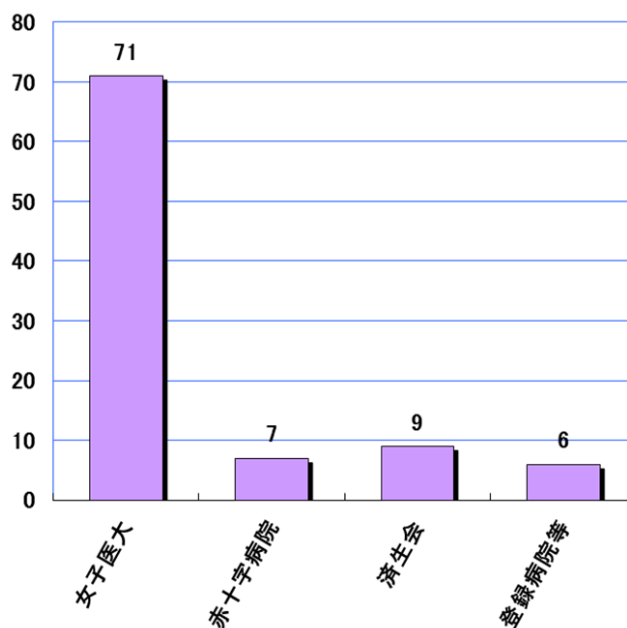
センターでは、ただ研修を行うだけでなく、それぞれの先生方の状況や環境を踏まえ、その方に適したアドバイスも行っております。

★申請者状況



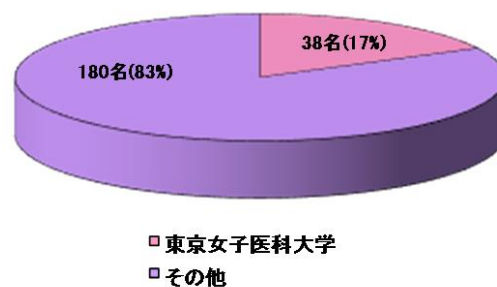
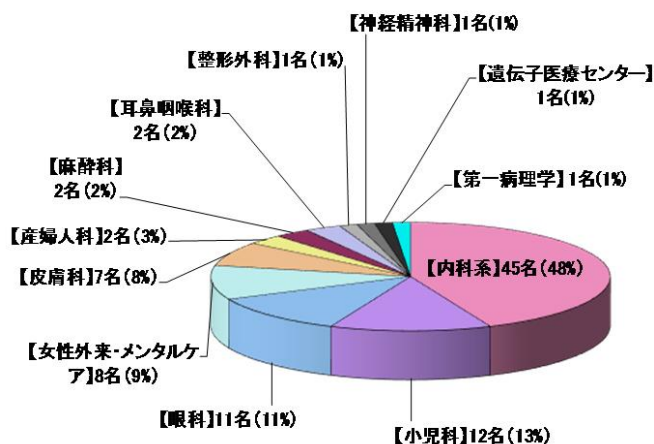
★研修先病院

n=93(研修者)



★研修先診療科の割合 n=93(研修者)

★出身大学の比率 n=217



■ 研修者の感想



申請時は離職中/40代
本学 東医療センター産婦人科にて研修

出産と育児のために仕事を離れ、気付くと10年の月日が経とうとしていました。末の子供が小学生になったのを機に、家族の協力を得てもう一度産婦人科の医師として働く決心をしました。

研修は週2日、1日につき6時間行わせていただきました。診断基準や治療方法、新薬の出現など私の働いていた頃との違いに戸惑い、10年のブランクを感じずにはいられませんでした。研修に向う度に良い緊張感と高揚感を得て充実した時間となりました。

周囲の先生方は私の些細な質問にもひとつひとつ丁寧に答えてくださり、常に私の希望を尋ねては研修の具現化にご尽力くださいました。限られた研修時間でしたので、やり残したことは多々ありますが、恵まれた環境で先生方の親身のご指導のおかげで臨床に戻る自信が付き、復帰の第一歩を踏み出すことができたと思っております。



申請時は離職中/40代
兵庫医科大学病院 総合内科にて研修

出産後は専業主婦として子育てに専念しており、医師としての経験も少なく、このままではいけないと思いつつも、どういう方法で復帰したらよいかかわからず、悩んでいる間に月日が経過してしまいました。子供が成人したのをきっかけに、本格的に医師として自立する方法を探そうと色々調べていたところで再教育センターを知り、勇気を出して申し込みました。

実際の研修では、先生の横について様々な患者さんの診察を見せていただき、診察の一連の流れや症状から考えられる検査や診断、治療方法などの説明を聞かせていただきました。学生の頃にはなかった治療や検査もあり、医学は日々進歩していることを痛感しつつも、研修医の先生や学生が新患の診察終了後に指導医の先生と相談されるのを一緒に伺ったりしながら勉強の毎日でした。

研修期間はあっという間に終了し、まだまだ足りないことだらけではありますが、今後は教えていただいたことを忘れずに次の一步を踏み出そうと思います。

(7)教育・学習支援プログラム(e-ラーニング)

■プログラムについて

教育・学習支援プログラムは、東京女子医科大学とグラクソ・スミスクラインが共同開発・運営する、医師やその他の医療従事者を対象としたe-ラーニングで、2016年3月末現在、約5,100名の方々にご登録いただいております。講義テーマや内容は本学が選定し、グラクソ・スミスクラインは、本プログラムに関する技術的かつ広報活動を支援しています。

結婚、出産、育児、介護など、様々なライフイベントが原因で臨床を離れた女性医師の復職支援、また、現役の女性医師の離職防止を目的としておりますが、医療従事者であれば男女を問わずにご視聴いただけるため、生涯学習の一助としてもご利用いただけます。

こちらのプログラムは、文部科学省の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進委託事業」に採択され(2008-2010)、2010年には「第7回 日本e-Learning大賞」において文部科学大臣賞を受賞いたしました。

このプログラムにより、臨床を離れた多くの女性医師へ情報を提供し、再研修への参加を促進することができるようになりました。つまり、これまで様々な制約のために研修への参加が叶わなかった女性医師が、自宅での空き時間を利用して最新の医療情報を入手するなど、臨床研修プログラムに参加が可能となる時期までの期間を、有効活用することができるようになりました。また、既に研修中の女性医師が併用することで、職場復帰時に、より一層の効果を発揮されることも期待されます。

e-ラーニングの講義一覧パンフレットは、
再教育センターのホームページから
閲覧・ダウンロード可能です。



■プログラムの特長

特長1:1講義は約20分

- 仕事や育児の間などに気軽に学習できることを想定して、1講義の時間は約20分としています。
- 講義は複数の章で構成しており、学習を途中で中断した場合でも、次回はその続きからご覧いただけます。

特長2:登録・視聴はすべて無料

- 医療従事者(医師、看護師、薬剤師 他)であれば、利用される方の年齢、出身大学、所属、地域を問わず、すべて無料で視聴できます。

特長3:ニーズに合わせた講義内容

- 先輩医師による体験談・アドバイスから最新の医療まで、様々なニーズに対応できるよう、講義を4つのカテゴリーに分けています。

キャリアに関する講義

女性医師の多様な働き方の提案、先輩医師からのアドバイスなど。

臨床に必要な基本的講義

診療科を問わず、最低限知っておきたい基本的な情報。

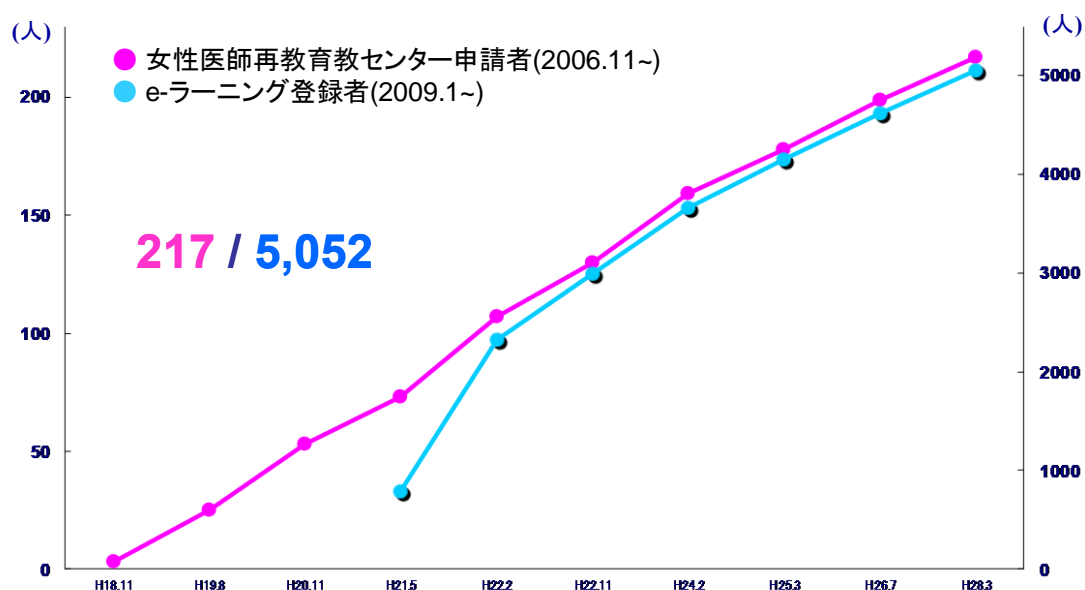
臨床に必要な実践的講義

疾患・治療・ガイドライン情報など、実践的な情報。

がんプロフェッショナル 養成基盤推進プラン

がんに関する様々な情報。

■ 申請者/登録者数推移(累計) 2016年3月末日現在

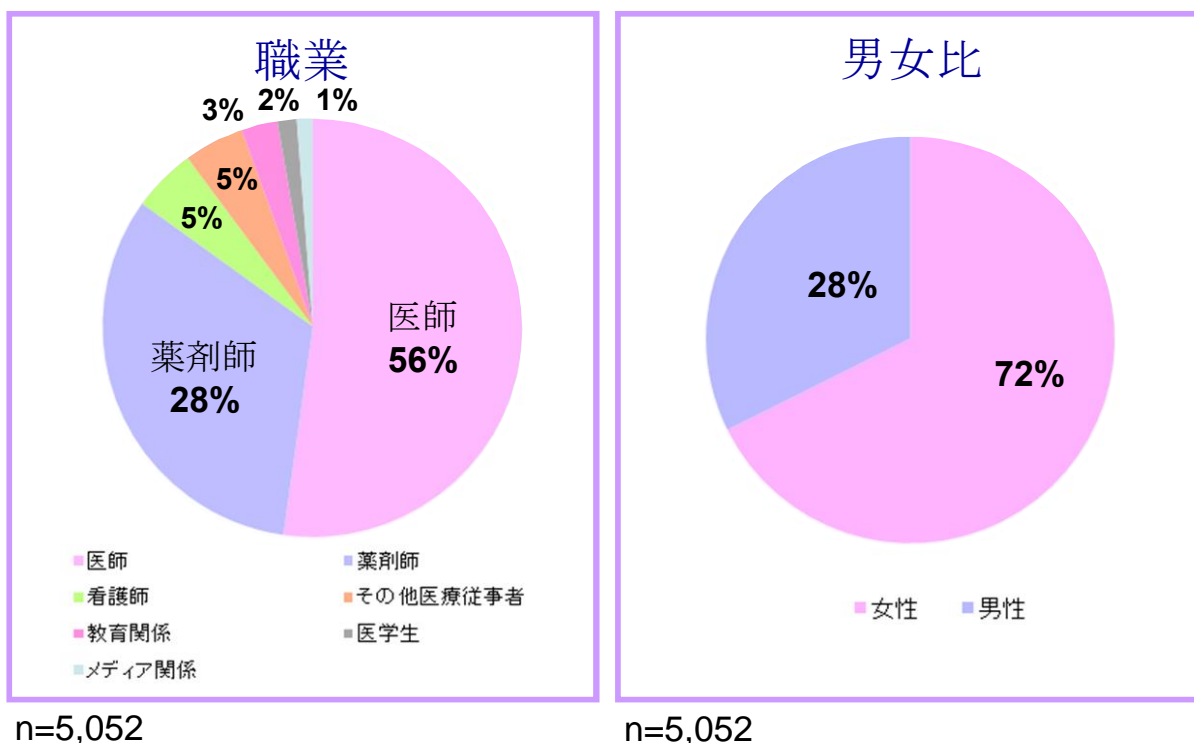


e-ラーニングの登録者は、2016年3月末日現在、5,052名となっています。

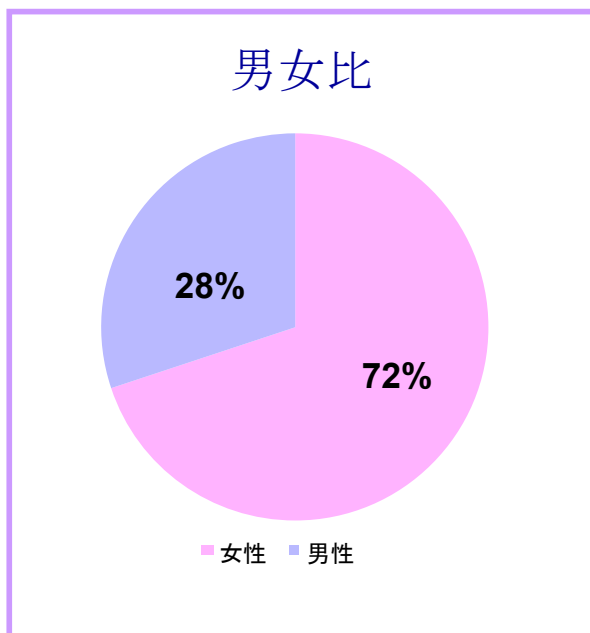
医師のキャリア、臨床に必要な基礎、実践、がんの4つのカテゴリーで、100講義以上を公開しており、2011年11月から始まったセンターの公式Facebookページでは、ここでしか見ることのできない限定の動画も公開しております。

ご覧になった方からは、復職に向けて一步を踏み出す勇気が出た、専門外の勉強ができて嬉しかった、などのご感想をいただいております。医師だけでなく、薬剤師や看護師、その他の医療従事者の方々にも、広くご利用いただけることが特長のひとつとなっています。

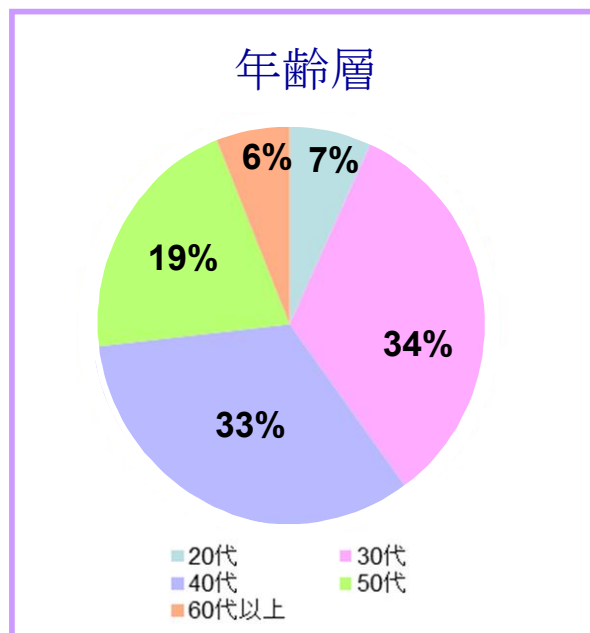
■ e-ラーニング登録状況:全体 2016年3月末日現在



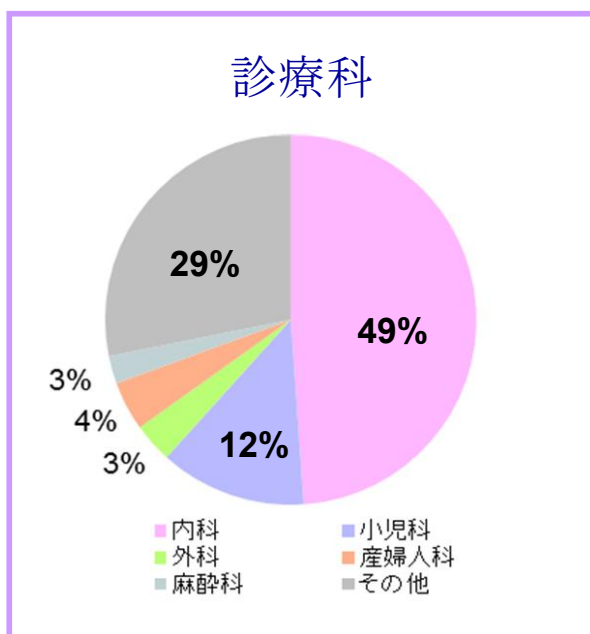
■eラーニング登録状況:医師 2016年3月末日現在



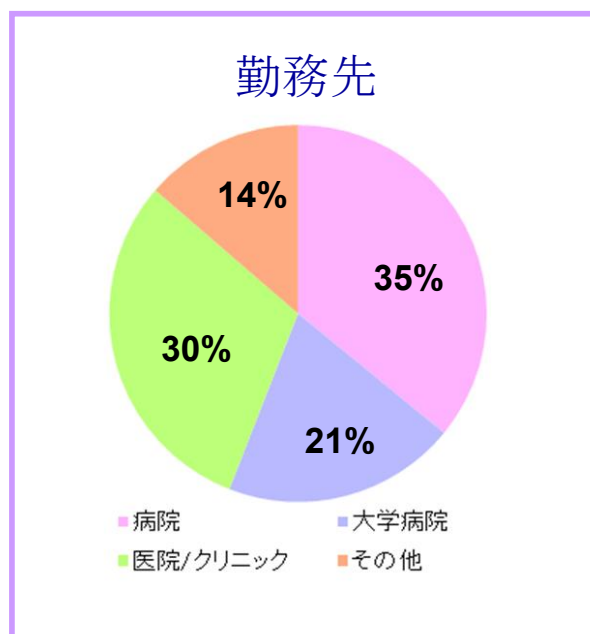
n=2,815



n=2,815



n=2,815



n=2,815

登録者全体の半数が医師、次いで薬剤師、看護師と続き、様々な医療従事者の方にご覧いただいています。

また、医師に限定してみると、女性が約7割、年齢層も30代と40代が6割を占めるなど、センターが支援の対象としている方々に、広くeラーニングをご利用いただいていることが分かります。

利用されている医師の診療科をみると、内科系が半数を占め、次いで小児科、産婦人科、外科、麻酔科が続き、ご覧いただいている先生方のご専門も多岐にわたります。勤務先も、大学病院や病院以外にも、医院やクリニックの先生方にもご利用いただいております。eラーニングが復職支援や離職防止だけでなく、現役医師の生涯学習の一助としてお役立ていただいていることも伺えます。

■2015年度の制作講義(講師の所属、職位は原則制作・公開時のもの)

【キャリア】日本赤十字社血液事業における医師の役割 ～キャリアの継続と日々の継続～

講師:日本赤十字社 血液事業部 副本部長
高梨 美乃子 先生

【臨床基本】トラベルメディスン ～渡航医療～

講師:東京医科大学 教授
東京医科大学病院 渡航者医療センター 部長
濱田 篤郎 先生

【臨床基本】画像診断7 ～基本からの腹部CT～

講師:本学 東医療センター 放射線科 准教授
町田 治彦 先生

【臨床基本】女性のうつ病・うつ状態と注意したい心理社会的要因 ～女性のトラウマ編～

講師:本学 女性生涯健康センター 所長・教授
加茂 登志子 先生

【臨床基本】地域医療の新しい枠組み ～地域包括ケアシステムと多職種連携～

講師:大月市立中央病院 臨床研修センター センター長
大月市地域包括ケア推進委員会
野村 馨 先生

【臨床基本】一般内科で遭遇する眼疾患

講師:本学 眼科 臨床教授
高村 悦子 先生

【臨床基本】一般内科初診外来のコツ ～AMLSパスウェイを使って～

講師:学生健康管理センター 講師
当センター 一般内科プロジェクトチーフ
横田 仁子 先生

【臨床基本】皮膚心身症

講師:女性生涯健康センター 副所長、皮膚科 教授
当センター長
檜垣 祐子 先生

制作本数 (2016年3月現在)	
キャリア	23
臨床基本	41
臨床実践	40
がんプロ	6
論文PJ	3
一般内科PJ	6
合計	119

(8)「論文を書いてみようプロジェクト」「一般内科プロジェクト」のe-ラーニング公開

「論文を書いてみようプロジェクト」では、休職中の時間を有意義に使って、また復職してからの更なるキャリアアップのために「論文の書き方」など初歩的なことからe-ラーニングで解説しています。実は、研究論文の書き方は知っているようで、知らないことが多いものです。抑えるべきポイントを復習して、実際に論文を書くことにぜひチャレンジしていただければと思います。

～論文を書いてみようプロジェクト e-ラーニング～

①【臨床研究の基礎知識1】初めての臨床研究

本学 衛生学公衆衛生学(二) 小島原 典子 准教授

②【臨床研究の基礎知識2】介入研究と観察研究

本院 臨床研究支援センター

本学 循環器内科 志賀 剛 准教授

③【臨床研究の基礎知識3】臨床研究の倫理

本院 臨床研究支援センター

本学 循環器内科 志賀 剛 准教授



また「一般内科プロジェクト」では、本プロジェクトのご紹介と、メディカルインタビューシリーズのe-ラーニングを公開しています。メディカルインタビューシリーズでは、勤務先やご経験が全く異なるベテラン医師3名が、同一の模擬患者に対してメディカルインタビューを行いました。三者三様のメディカルインタビューと解説を公開しておりますので、ぜひこちらもご覧ください。

～一般内科プロジェクト e-ラーニング～

①一般内科プロジェクトのご紹介

東京女子医科大学 女性医師再教育センター 一般内科プロジェクトチーフ

学生健康管理センター 横田 仁子 講師

②メディカルインタビューシリーズ

1.的確な短時間の医療面接

手稲溪仁会病院 総合内科・感染症科 感染症科チーフ 兼 感染対策室室長

(現 一般社団法人 Sapporo Medical Academy 代表理事) 岸田 直樹 先生

2.家庭環境や心理面に配慮した医療面接

川崎医療生活協同組合 あさお診療所 所長 西村 真紀 先生

3.地域中核病院長による医療面接

千葉県立東金病院 院長

(現 千葉県病院局 理事、千葉県循環器病センター 理事) 平井 愛山 先生

(9)Facebookの活用

当センターでは、Facebookを利用して、様々な情報発信やFacebook専用コンテンツの配信を行っております。

～ 本学 社会貢献活動の更なる普及【広報用】～

当センター公式Facebookページ「東京女子医科大学 女性医師再教育センター」では、本学による 女性医師支援活動(実地研修、および、e-ラーニング)について、一般をはじめ、医療従事者に知っていただくことで、支援を必要とされる一人でも多くの先生方に情報をお届けできればと考えております。

イベントの開催やe-ラーニング(教育・学習支援プログラム)の新規講義公開のお知らせ等、様々な情報をご提供して参ります。ご登録・ご利用は、全て無料です。

～ 女性医師再教育センター「再教育-復職プロジェクト」バーチャル同窓会(※)【交流用】～

本学 女性医師再教育センター「再教育-復職プロジェクト」による研修の申請・研修者は217名となり(2016年3月末現在)、その約8割の方が本学以外の卒業生です。

当センター公式Facebookページ「東京女子医科大学 女性医師再教育センター」(一般公開)内に、バーチャル同窓会「東京女子医科大学 女性医師再教育センター同窓会」(一般非公開)を設立し、出身大学、お住まいの地域、時差に関わらず、関係者(センターの申請・研修者、講師、その他プロジェクト関係者)間のインターネット上でのコミュニケーションを図る場をご提供いたします。

※バーチャル同窓会

Facebookというインターネット上のバーチャルな環境で運営する「再教育-復職プロジェクト」の同窓会です。同窓会メンバーとして、当センターより承認を得た関係者のみに公開し、一般には非公開とします。

したがって、本ページ内の情報(ご案内、コメント、画像、映像等)が外部に公開されることはありません。



女性医師再教育センター 公式Facebookページ
<https://www.facebook.com/TWМУSupportCenter>

(10)公式アプリのご紹介

より多くの方に快適に教育・学習支援プログラム(e-ラーニング)をご利用いただくため、iPhone/iPad用アプリを作成致しました。画面上をタップするだけで、e-ラーニングログイン画面やFacebookページを表示できます。

お子様とお楽しみいただける「カメラ機能」もございますので、「App Store」よりダウンロードの上、ぜひご利用ください。(無料) <https://itunes.apple.com/ja/app/id793030931>

「App Store」内の検索で「女性医師再教育センター」をご入力いただくと、アプリがすぐ見つかります。



(11)一般内科プロジェクト

■発足の経緯

当センターへの研修希望で「内科」や「一般内科」のご要望が複数あり、女性医師が復職する際、自宅から通える範囲にある一般病院やクリニック(内科)への復帰ニーズが高いことが伺えました。

しかしながら、そもそも「一般内科」の定義は何なのか、何をどこまで診療できればよいのか、見落としはいけないポイントは何かなど明確な基準がなかったため、まずは実際に初診外来にはどのような主訴の患者が多く来るのかを調査するため、このプロジェクトを発足致しました。

■多施設による初診外来主訴調査

本プロジェクトでは、実際に初診外来にはどのような主訴の患者が多く来るのかを調査するため、規模の異なる以下の6施設で共通問診票を使用し、主訴と診断名の臨床データベース構築を目指しました。

★調査施設(施設名称、病床数は調査時点のもの)

千葉県立東金病院(約60床)、北本共済病院(約60床)、東葛病院(約300床)、
埼玉協同病院(約400床)、聖隷横浜病院(約300床)、あさお診療所(無床)

★調査概要

実施時期:2011年6月15日～7月15日(夏季)

2012年1月16日～2月15日(冬季)

集計数:1,637枚(夏季)、2,787枚(冬季)

愁訴(自由記載)をICPC-2でコード化した。

★追跡調査

共通問診票を用いた初診外来主訴調査を実施した6施設のうち、複数の施設でその後の転帰の追跡調査を行っています。



■一般内科研修の受付開始～スキルチェックリストの活用～

集計結果を基に、一般内科外来を行うために必要な診療経験やスキルなどを項目化した「スキルチェックリスト」を作成し、このチェックリストは自身の現状確認に利用できるよう、どなたでも利用可能としました。また、一般内科研修希望者には予めチェックリストを入力してもらうことで、診療経験や研修したいポイントを明確にすることができるようになりました。2015年度からは、実際にチェックリストを活用した研修が開始されています。

このチェックリストは、研修希望の有無に関わらずどなたでもご利用いただけますので、ぜひご自身のスキルチェックにご活用ください。



多施設共同研究 調査の最終結果については現在まとめを進めておりますが、研究の進捗状況について、過去に以下の文献に掲載しております。

1. 2015201189

一般内科初診外来における愁訴に関する多施設共同研究(第2報)

横田 仁子(東京女子医科大学), 野村 馨, 西村 真紀, 村田 亜紀子, 河合 由紀, 関口 由希公, 竹並 麗, 下 正宗, 岩崎 滋樹, 平井 愛山

Source: 日本内科学会雑誌(0021-5384)104巻Suppl. Page235(2015.02)

2. 2013370218

地域病院における一般内科外来新患者の主訴と診断名に関する多施設共同研究の成果とその応用
平井 愛山(千葉県立東金病院 内科), 岩崎 滋樹, 下 正宗, 竹並 麗, 西村 真紀, 関口 由希公, 村田 亜紀子, 河合 由紀, 野村 馨, 川上 順子

Source: 医学教育(0386-9644)44巻Suppl. Page90(2013.07)

3. 2013218944

地域病院における一般内科外来新患者の主訴と診断名に関する多施設共同研究の成果とその応用
平井 愛山(千葉県立東金病院 内科), 岩崎 滋樹, 下 正宗, 竹並 麗, 西村 真紀, 関口 由希公, 村田 亜紀子, 河合 由紀, 野村 馨, 川上 順子

Source: 日本内科学会雑誌(0021-5384)102巻Suppl. Page246(2013.02)

(12)「第5回 復職のためのハンズオン実習」の開催報告

2016年1月23日(土)に、4年ぶりとなる5回目のハンズオン実習を開催致しました。

項目	講師	使用シミュレータ
上部消化管内視鏡	消化器内視鏡科 中村 真一 教授	気管支・消化器内視鏡 シミュレータ「Accutouch」
腹部超音波	消化器内科 高山 敬子 准講師 (超音波検査室室長)	心臓・腹部超音波検査 トレーニングシミュレータ 「VIMEDIX」
フィジカルアセスメント	東医療センター 内科 小川 哲也 准教授	心臓音診察シミュレータ 「イチロー」 呼吸音聴診シミュレータ「ラング」 フィジカルアセスメントモデル 「Physiko」
救命救急	学生健康管理センター 横田 仁子 講師	CPRシミュレータ「リトルアン」
手技(採血)	看護部 鈴木 登万 看護師主任 佐藤 裕子 エキスパートナース	採血・静脈注射シミュレータ 「シンジョーⅡ」

協力:医療人統合教育学習センター

上部消化管内視鏡では基本的技術からポリペクトミーまで、腹部超音波ではスクリーニングの基本から異常所見の検出法までを、フィジカルアセスメントでは心音、肺音の聴診を正常から疾患ごとの異常所見を聴取する方法を行いました。

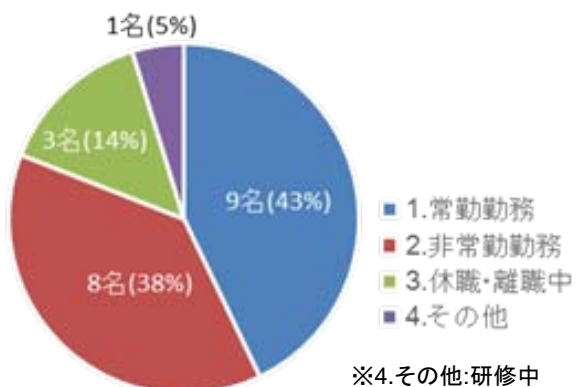
また、救命救急では2人法BLSを、さらに手技(採血)では静脈採血法を行いました。それぞれの内容について、初めて経験される参加者も多く、最初は戸惑いながらシミュレータに触れるような感じでしたが、講師の先生の説明を熱心に聞きながら、参加者同士で和気あいあいと楽しく参加されている様子が印象的でした。

お昼の交流会はお子様も一緒に参加され、参加者同士で情報交換をしたり、講師に質問したり、賑やかな雰囲気で行うことができました。

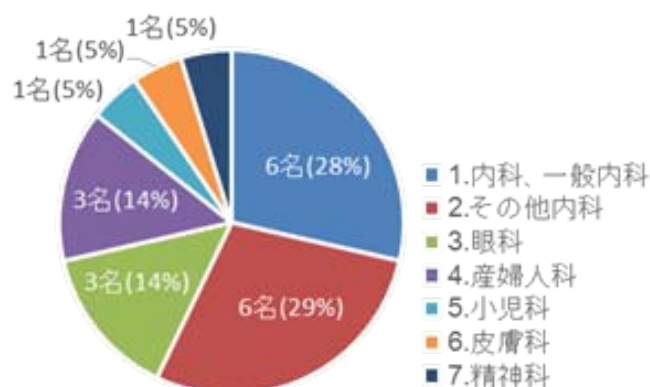
今回の実習は、講師の皆様のご協力なしでは、なし得なかったものと思います。ご協力をいただきました皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

<第5回 復職のためのハンズオン実習 アンケート結果> 回答者21名(回答率95%)

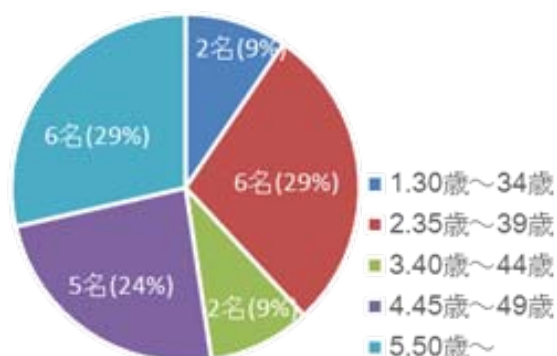
Q.現在の勤務状況を教えてください。



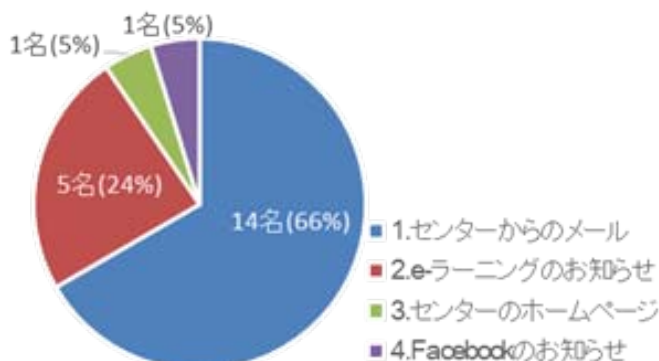
Q.ご専門の診療科(休職・離職中の方は
お休みされる前の診療科)を教えてください。



Q.年齢をお選びください。



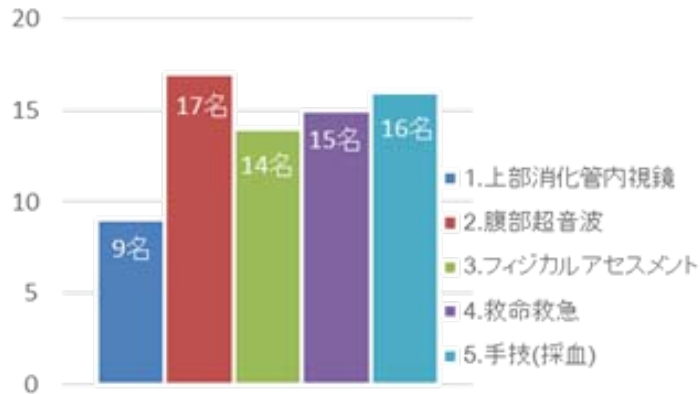
Q.今回の開催をお知りになったきっかけを
教えてください。



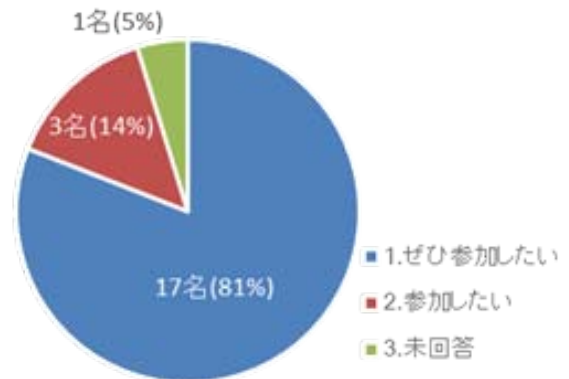
Q.実習に参加しようと思ったきっかけを教えてください。(抜粋)

- ・苦手な内視鏡トレーニングをしたいから。
- ・手技がまったくできないため。
- ・今までやったことがない手技や、自信がない手技を練習できることが興味を持つきっかけになりました。
- ・腹部超音波を習得したかったため。
- ・自己学習のため。
- ・復職のきっかけ作りとなれば良いと思って参加しました。
- ・託児があり、エコーを学びたいと思ったので。
- ・日常診療に役立てたい。スキルアップのため。
- ・子育てが落ち着き、家庭の事情で休職していたが復職したいと思ったため。
- ・同じような環境でがんばっている女医さん方と、一緒に臨床を学べる機会を得たいと思いました。
- ・実技の実習を受ける機会がなかなかないため。日頃の勤務中に確認できる機会がないので。
- ・画像の診断はしているが、実際に検査の操作をしたことがなかったため。
- ・常勤で病院に復職するため。
- ・今度の4月から正式に復職することが決まり、フィジカルアセスメントなど勉強しなくてはと思っていたところに、ちょうどお知らせメールをいただきました。
- ・復職支援を担当しており、今後の活動に活かしたい。自身も研究が主で臨床から離れているため。

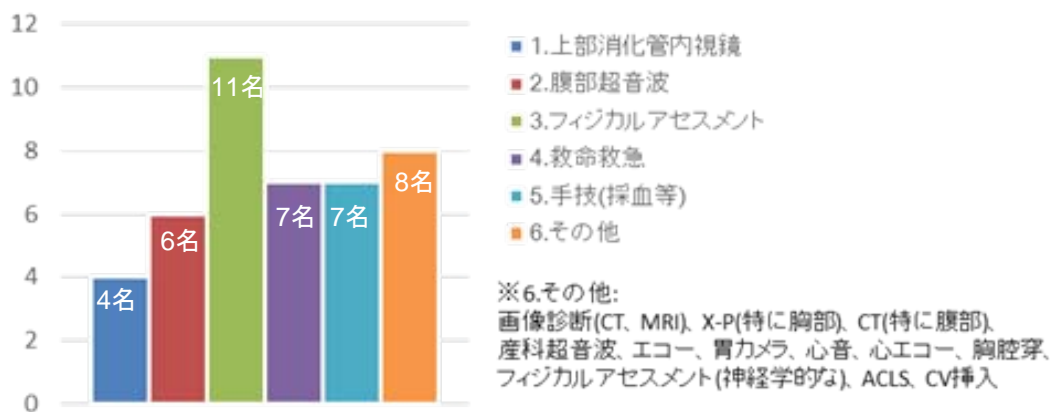
Q.本日はどの実習に参加されましたか？
(複数回答、見学も含む)



Q.今後またこのような実習があったら参加したいと思いますか？



Q.今後こんな実習をやってほしいというリクエストがございましたら教えてください。(複数回答)



Q.今回の実習で「よかった」と思う点をご記入ください。

- ・シミュレーションを通して自分の苦手な所がわかりました。
- ・実際に手技が体験できて少し自信になったと思う。また丁寧に教えていただけてとても良かったです。
- ・少人数で全員が参加できること。
- ・シミュレータや材料が充実していることと、初歩的なことからわかりやすく教えてもらえたこと。
- ・フィジカルアセスメントで、心音、肺の聴音がとても理解できました。腹部超音波、採血、サーフロー、救命AED等、良かったです。
- ・託児があったこと。また、実際にやってみることでイメージしやすく、座学よりわかりやすかったです。
- ・心音のシミュレーションがとても勉強になった。普段経験できないことだったので非常に面白かった。
- ・医師として必要な知識を改めて教えていただきました。学べて良かったです。
- ・しばらく遠ざかり、ハードルが高かった手技にトライできたことが良かったです。
- ・様々な女性医師と情報交換でき、非常に有意義であった。知識をブラッシュアップできた。

3. 学術活動、メディア掲載記事等



■学術活動

① 2015年7月 第47回 日本医学教育学会〈新潟〉

女性医師のキャリア再開に関する検討
女性医師再教育センター登録事例の解析 (I)

Study on career resume of female doctors
-Analysis of The Female Doctor Re-education Center material (1) -

岩崎直子^{1,2)}、横田仁子^{3,2)}、小島原典子^{4,2)}、中村真一^{5,2)}、檜垣祐子^{6,2)}

Open-educationとしてのe-ラーニングの活用と評価

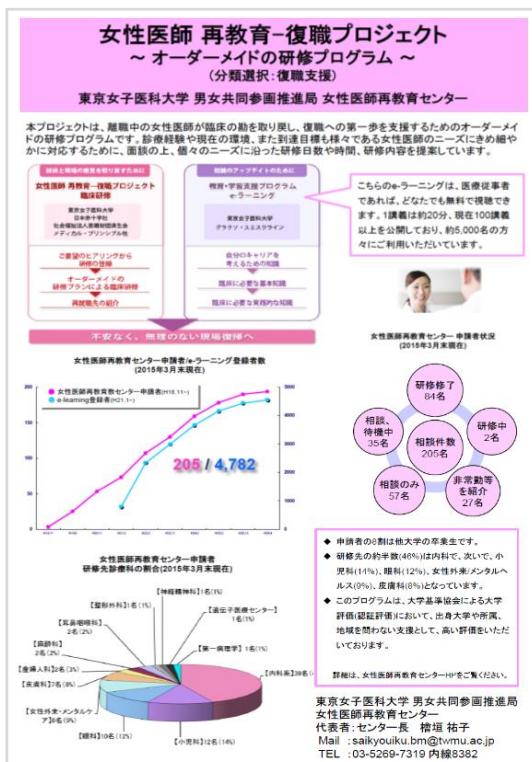
小島原典子^{1,2)}、佐藤由紀³⁾、横田仁子^{1,4)}、岩崎直子^{1,5)}、檜垣祐子^{1,6)}

② 2016年2月 プライマリ・ケア連合学会「第11回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー」
セミナーのFacebookで行われた特別企画「eパネル企画」にポスターが掲載されました。

■講演

『2016年2月20日 平成27年度 広島県医師会 女性医師部会総会』

「女性医師支援の取り組みについて」をテーマに檜垣祐子センター長が講演致しました。



平成27年度 広島県医師会
女性医師部会総会

2016
2月20日
17:00開会

日時:平成28年2月20日(土)17:00 開会
場所:ホテルグランヴィア広島 3階 飛鳥の間

日本医師会生涯教育1.0単位
カリキュラムコード 1, 8

●開会挨拶 17:00
.....広島県医師会 会長 平松 恵一

●報告 17:05
平成27年度広島県医師会女性医師部会の取り組み
.....広島県医師会 常任理事 温泉川 梅代
.....広島県医師会女性医師部会 部会長 楳山 桂子

●特別講演 17:30
女性医師支援の取り組みについて
.....東京女子医科大学 教授 檜垣 祐子

●質疑応答 18:30

●懇親会 19:00

主催 広島県医師会

託児室
あり(要予約)
参加
無料

2016年(平成27年度) 広島県医師会 女性医師部会総会

プライマリ・ケア連合学会「第11回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー」

休職者に心強い 女性支援のカリスマ

世界的にも珍しい女子大学として、
医学部である、東京女子医科大学
では女性医師の勤務態様に対し
様々な支援を行っています。

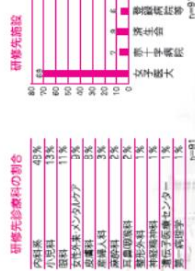
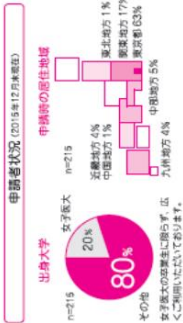
男女共同参画推進府を設立し
「女性医師・研究者支援セン
ター」「女性医師再教育セン
ター」「看護職キャリア開発支
援センター」の3つのセンター
から成り、同院内、文部省へ
の働きかけをしています。

2006年度から具体的な事業を
スタートさせ、今年で10年。制
度を利用してステップアップした
医師、復職を希望した医師が顕著
に増えてきています。

その中でも那珂の医師にも利用できる
「女性医師再教育センター」では、渡辺
研修の「女性医師再教育・復職プロジェクト」と「教育・学習支援プログラム（e-フ
ロント）」を2本柱として活動しています。

技術と職場の感覚を取り戻す再教育 復職プロジェクト

申請者の状況、ご要望を個別にヒアリングして、対応を検討し
たします。研修を行う際には、研修先との交渉を行い、オーダ
ーメイドの研修カリキュラムを申請者と一緒に計画します。



復職プロジェクトの相談はまず相談者への
ヒアリングと面接をして、相談者の要望や
現在の状況を確認し、オーダーメイドの研
修プランを組めます。週平日・毎時間研修
できるのかそれぞれ職場が違いますので、
それに合わせてスケジュールや研修先も相
談のうえでもらえます。

同センターで相談役を務める相田さんは
「相談に来られる皆さんはみなさんとも
異なっていて、私は医師を始める前にも社会に買
い込んでいない、と何もしていない自分に
悩んでおられる方がとても多いです。」と
仰っています。

高度な教育を受け独り立ち門を渡り返って医師
になった皆さんは、医師という特に社会員
意識の高い職業が別に、その資格を活用で

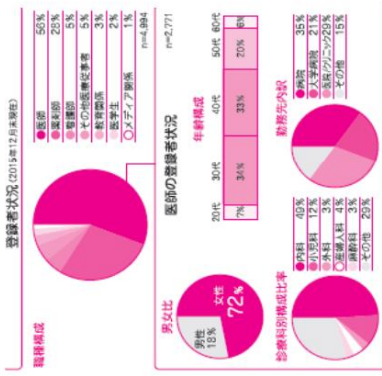
きていないことへの罪悪感や喪失感に苛ま
れることが多いようです。

相談者の出身大学も8割が女子医大以外の
卒業生で、診療科目や居住地域も様々です。
同センターでは、ただ研修を行うだけでなく、
それぞれ医師の状況や事情を聞き、
その人に合ったアドバイスもしてくれます。
復職に踏み出すにはいる人がいれば、是非
一度相談してみたいかでしょうか。

教育・学習支援プログラム（e-ラーニン
グ）は、女性医師だけに限らず医師・看護
師・薬剤師などの医療従事者、医師を志す
学生でも利用が可能です。休職中医師のみ
ならず、当院の医療従事者にも専門外の学
習として誰でも無料で利用できます。
これまで様々な制約のために研修へ参加で
きなかった女性医師が、自宅で最新の医療
情報を入手でき、研修プログラムに参加で
きる期間までの期間を有効活用できるよう
になっています。

知識のアップデート教育と学習支援 e-ラーニング

1講座は約20分、「キャリア」「臨床実践」などのカテゴ
リに別れており、約100コンテンツを公開しております。音源、視聴は
すべて無料です。医療従事者であれば、性別、年齢、お住まいの地域など
を問わず、どこからでもご利用いただけます。



東京女子医科大学
女性医師再教育センター事務局長
相田 麗子
和 田 美 子

2つのプログラムで女性医
師の復職を支援しています
が、これはあくまでもセー
プターネットワークです。こ
うサポートがあるという
ことを知ってもらうことで、
既成女性医師の復職防止に
なっていくことは、和田さ
んは望みます。

女性医師再教育センター 2つのプログラムで医師の復職を支援——。



東京女子医科大学
女性医師再教育センター長
教授
榎垣 祐子

女性医師にとってのキャリアデザイン形成は、目標をフレキシブルに変えていける対応力が大切だと榎垣教授は語ります。



総合外来センター外観

榎垣先生がセンター長を務める「女性医師再教育支援センター」にはどのような担担者が来られるのですか。

年代としては40代～50代の子育てが落ちついて、もう一度医師として働きたい方が大半です。離職した医師の経験や職場は様々なため、研修プログラムも1つでは対応できません。

相談者一人ひとりの悩みや不安を聞きだし到着目標を決め、その目標達成のための研修先を選定します。実際に研修に至るまでに私たちに相談することで、自ら方向性を見つけて復職される医師もいらっしゃいます。当センターが紹介する研修はたった3か月と短く、離職期間の遅れを取り戻したり、新しい医療技術を習得するためには十分ではありませんが、最初の一步を踏み出すお手伝い、目標を取り戻すための後押しをすることが役目です。離職期間が長くはなればなるほど自分ももう一度医師として働けるのか、何から始めればいいのか分からず悩んでいる方がほとんどです。世の中には復職したいと願う女性医師が相対できる場所や組織が少なく、それ自体が大きな問題だと感じています。

女性のライフコースには多くのライフイベント（結婚・出産・育児・親の介護）があり、男性のように定期的に仕事・キャリア形成をすすめていくというライフイベントはありますか。

女性医師のキャリアを考える時、個人の環境や価値観に大きく左右されますので何か1つ総論というのを提示することは困難です。どの道を選択しても悩みや困難もありませんし、充実感もあります。視点を変えれば男性の比較的一般的な価値観のライフコースに比べることも、非常に価値観が多様化しており、選んだコースで直面する困難をどうやって乗り越えるかの方法も様々です。

私個人の考え方としてはライフイベントにより、仕事の活動量を減らしてベースダウンすることを前提とした考え方は抵抗があります。家庭と仕事を両立させたいという考え方には反対です。そもそも全ての働く人にライフイベントがあり、子育てや介護もあるもので、両立する・しないという問題ではなく、兼業一体どちらも存在するものです。ワークライフバランスという言葉がありますが、最近ではワークライフシナジーという言葉に変わりつつあります。

仕事がプライベートにプラスに作用することもあるれば、プライベートが仕事に作用することもあると思います。両方が人生の一部であるという大きな視野で捉えれば、双方がシナジー（相乗効果）であるという考え方が大切だと思います。

ですから、女性の20代～30代は子育てもあっても大丈夫だから仕事の活動量を減らして、子育てが落ち着いたら復帰できるルートを作るという考え方は実は反対です。そのルートを選択することでキャリア形成上はどうしても不利になります。キャリアをキープしつつ進むことも理想です。その為には性別役割分担制という日本の昔からの概念・文化を打破していかないと本当にハッピーな世の中にはならないと思います。

近年のアンケート調査で『管理職になりたくない』という女性新入社員が増えているというような報告がありますが、若い女性医師にもそういったキャリア志向の低下や医師としてのモチベーションの低下は見受けられるのでしょうか。

※ 全国医師会連合会 2014年度新入社員医師の意識調査より

私が学生時代に教わった女性教授たちは独身で、男性並みにというか、男として仕事をしていて『男の3倍働け』と言われて、それを受け入れてきた人たちなんです。そして、その次の世代というのが今の60代くらいの人達で、その人達は仕事も家庭も両立させたいと知恵を絞って、家族や地域などの助けも借りて乗り越えてきた人たちです。その世代が今の若い世代を指導したり支援する側になっていきます。今は3代目の時代となり、先輩ではなくとも働くための支援が確保されている職場にいて、初めから支援を受けることが普通という世代なので温度差は感じますし、彼女たちのモチベーションに影響しないかなという危惧はありますね。ですからキャリアという存在が重要で、自分のモデルとなる医師がいることが非常に大切です。

私の研修医時代と比べれば仕事に対する考え方も随分変わってきたと感じます。管理職にならなくても、ある程度技術をつければ本業を離れないという人も増えていきます。ただ興味のある分野には非常な力を入れる人が多い傾向にあるので、指導者はその人が興味を持って取り組める環境を造っていくことが必要です。

榎垣先生にとってのキャリア、キャリアデザインとはなんでしょうか。

当大学は女子医大ですので「然るべき女性医師」を育成することだと考えています。では然るべき医師とは何かと申しますと、責任を持って社会に貢献できる医師だと思います。勤務医でも研究者でも構いませんが、やはり高度な教育を受けて医師免許を持っているのだから、自分の暮らしたためだけというよりは、社会に貢献するという視野を持って欲しいですね。

キャリアデザインというのはその中で目標をもつことですが、女性医師はその目標をフレキシブルに変えていける力があるからだと思います。1つの目標だけを進めようか分かりますので、その程度柔軟に対応してその中で自分のやりたいことを貫いていけることとなることも多いものです。私や周りの女性医師たちはそういう人が多くいます。

最後に男性医師や病歴関係者へのメッセージをお願いします。

恐らく女性医師が働きやすいように時短勤務を取り入れたら、院内保育所を作りましょうというように女性考え方が一般的だと思いますが、そういう制度を導入するだけのレベルは超えて欲しいですね。そのような安易なルートを太くすることでではなく、男性も女性もどういった一層に働いていけるのか、教育していくのかという視点を持って考えて欲しいです。支援されるという関係よりも、仲間として尊重して欲しいです。その為にも女性医師は尊重されるだけの責任を果たすべきで、そこに男女共同参画社会が実現すると思います。

本活動報告書とeラーニングの講義一覧パンフレットは、ホームページよりダウンロード可能です。
ぜひ支援を必要とされている皆様にご案内いただければ幸いです。

東京女子医科大学
Tokyo Women's Medical University
女性医師再教育センター
「活動報告書」のダウンロードはこちらから

Home ● センター概要 ● プロジェクト紹介 ● 研修者の声 ● よくある質問 ● **活動報告** ● 研修協力病院 ● お問い合わせ ● 関連リンク

あなたに合ったオーダーメイドの再教育プログラム

- 研修にはどんなカリキュラムがあるの？
- しばらく休職していて復職の仕方がわからない
- 研修先が自宅から遠いし..
- 治療技術が変わってるかも..
- 子育てに追われて時間がとれない..
- 離職中にせっかくの医師の知識を生かしたい

ご相談・登録申請
研修者の声
よくある質問 FAQ

プロジェクト紹介

- 申請から研修までの流れ
- 女性医師再教育 復職プロジェクト
- 教育・学習支援プログラム eラーニング**
- 一般内科プロジェクト
- 一般内科プロジェクト スキルチェックリスト

「eラーニング講義一覧パンフレット」のダウンロードはこちらから

教育・学習支援プログラム eラーニング

eラーニングとは

当センターが2009年11月に開始した「再教育・研修プログラム」により、再就職を希望する女性医師の復職支援が数多く実現し、効果も高まりました。より多くの女性医師の再就職の体制を整備することが課題として引き続き取り組んでいます。

2009年1月、インターネットを通じて復職支援の経験を持つシニアクリニックの女性医師が東京女子医科大学との共同で教育・学習支援プログラム「eラーニング」を立ち上げました。多くの女性医師が参加し、医師としての知識や経験を再就職先へ活かすことが可能となりました。

つまりは、これまで様々な障壁があった女性医師が、自身の空き時間を利用して無休の学習体験を入手すると、臨床研修プログラムに学習可能な知識・技能を効果的に習得することが可能になりました。特に研修中の女性医師が利用できることで、復職支援プログラム一環の効果も発揮することも期待されます。

このプログラムは、日本人の学び合いニーズに対応する推進事業として開始されました。(2009-2013)

しばらく休職している間に...
医師業務が変わってしまった
医師の経験を忘れ、現場に戻るのが怖い
最新情報がない
復職の仕方がわからない

東京女子医科大学 グラジノスモスクライン
教育・学習支援プログラム

受講者ログイン

教育・学習支援プログラム (e-Learning)

教育・学習支援プログラムは、東京女子医科大学とグラジノスモスクラインが共同開発・運営する医師を対象としたeラーニングです。

本プログラムは、研修、育児、介護など、働き方イノベーションを実現して働き続けたい女性医師、医師の女性医師のキャリアを支援する社会貢献活動として、医師研修院（社団法人の学術・ニーズ対応研修施設）として採択されました(2019.2/2)。また、「がん・AI・メタボリックシンドローム診療推進プロジェクト」にも参加しております(2019.2/28)。

eラーニングを通して、医師のキャリア、臨床でのスキル、知識、意欲、みんなの力でカバーして様々な課題を克服してまいります。

本プログラムに詳しい結果ページや詳細は、東京女子医科大学よりご確認ください。
グラジノスモスクラインは、本プログラムに多くの医師が参加し、効果も高まっています。

- 利用される方の医師大学、専任、非常勤、地域医師はなし。
- 研修中の方として、医師研修施設で研修中の方、また、研修中の方と医師研修院で研修中の方、研修院の研修院、研修院の研修院、研修院の研修院に研修中の方が多い。

e-ラーニング
登録はこちら

クリック

- パンフレット** 講義一覧をご覧ください。
- おすすめの講座** 目的別「おすすめの講座」の一例をご紹介します。
- サンプル講座** 講座のイメージをご覧ください。
- リンクバナー** 教育・学習支援プログラムのバナーをご利用いただけます。
- 登録者情報** 教育・学習支援プログラムの登録者数情報をご覧ください。

発行 2016年(平成28年)5月
発行者 東京女子医科大学 男女共同参画推進局
女性医師再教育センター
〒162-8666
東京都新宿区河田町8番1号
電話:03-5269-7319(内線)8382
e-mail:saikyouiku.bm@twmu.ac.jp
URL :<http://www.twmu.ac.jp/CECWD/>

2016年6月19日より
連絡先が変更になります。

電話:03-5269-7319
(内線) 41382